

2023年4月28日

## 第36回「京都美術文化賞」受賞者決定について

このたび、公益財団法人 中信美術奨励基金（理事長 白波瀬 誠）では、財団の顕彰事業である第36回「京都美術文化賞」の受賞者を決定しましたのでお知らせいたします。

記

### 1. 第36回「京都美術文化賞」受賞者・受賞理由

**北山 善夫（きたやま よしお・74歳）** 絵画・彫刻

平面や立体等様々な展開が見られ、国内外で活躍している。

**岸 映子（きし えいこ・75歳）** 陶芸

独自の彩石象嵌技法を駆使した作品が国内外で高く評価される。

**西山 美なこ（にしやま みなこ・58歳）** 現代美術

「かわいい」文化の元祖として独自の技法で少女文化の甘美さを表現している。

### 2. 贈呈式

日時 2023年5月30日（火）午後2時

会場 ウェスティン都ホテル京都 葵殿

京都市東山区三条けあげ TEL 075（771）7111

### 3. 京都美術文化賞について

美術の創作活動を通じて京都府市民の精神文化向上に多大の功績があった方に対し、「京都美術文化賞」として賞牌と賞金1人金200万円を贈呈し、創作活動を奨励しています。

1988年5月の第1回に始まり、今回で第36回目の贈呈となりました。

#### (1) 選考委員(敬称略)

太田 垣 實 (美術評論家)

潮江 宏 三 (京都市立芸術大学名誉教授)

篠原 資 明 (京都大学名誉教授)

福永 治 (京都国立近代美術館長)

冷泉 為 人 (公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長)

(2) 受賞記念展の開催

2024年1月開催予定

於:京都文化博物館

(3) 過去の受賞者 (別紙一覧参照)

・受賞者総数 108名(今回を含む)

絵画 39名 (日本画19名 洋画13名 版画6名 その他1名)

彫刻 13名

工芸 39名 (染織13名 陶芸18名 漆芸4名 截金1名 截金ガラス1名  
人形1名 ガラス造形1名)

その他 17名 (写真3名 ファイバーアート4名 マルチメディアアート1名  
現代美術8名 花人1名)

・受賞後の活躍

第1回受賞 秋野不矩氏、1999年度文化勲章受章

第7回受賞 黒崎彰氏、2008年瑞宝中綬章受章

第9回受賞 岩倉寿氏、2003年日本芸術院賞受賞、2006年芸術院会員

第9回受賞 木村光佑氏、2012年瑞宝中綬章受章

第13回受賞 江里佐代子氏、2002年人間国宝認定 (当時史上最年少)

第19回受賞 宮瀬富之氏、2009年日本芸術院賞受賞、2022年芸術院会員

第24回受賞の森村泰昌氏、2011年紫綬褒章受章

など、受賞後の活躍はめざましいものがある。

(4) 「京都美術文化賞」の意義

伝統ある京都の芸術を発展させ、京都からすばらしい芸術家を誕生させる刺激となっている。美術関係者からは、この賞の足跡について「京都の優れた芸術が集まり、京都の美術界の流れをあらわしていて意義深い」と評価をいただいております。

#### 4. 公益財団法人 中信美術奨励基金について

京都中央信用金庫の預金量一兆円達成(1986年11月)を記念し、1987年4月1日に設立しました。京都府下における美術の創作活動を奨励し、伝統的文化の継承発展並びに京都府・市民の精神文化向上に寄与することを目的としています。2011年4月1日より公益財団法人に移行しました。2019年京都市芸術振興賞を受賞いたしました。

以 上

京 都 美 術 文 化 賞 受 賞 者

※は故人

第1回(1988年5月)	※秋野 不矩(日本画)	※小牧 源太郎(洋画)	※坪井 明日香(陶芸)
第2回(1989年5月)	※麻田 浩(洋画)	小清水 漸(彫刻)	※伊砂 利彦(染色)
第3回(1990年5月)	※中野 弘彦(日本画)	※三尾 公三(洋画)	※藤平 伸(陶芸)
第4回(1991年5月)	竹内 浩一(日本画)	井田 彪(彫刻)	樂 吉左衛門(陶芸)
第5回(1992年5月)	※吉原 英雄(版画)	※野崎 一良(彫刻)	※南 祥輝(漆芸)
第6回(1993年5月)	中野 嘉之(日本画)	内田 晴之(彫刻)	面屋 庄甫(人形)
第7回(1994年5月)	※黒崎 彰(版画)	※鈴木 治(陶芸)	※来野 月乙(染色)
第8回(1995年5月)	※下村 良之介(日本画)	番浦 有爾(彫刻)	深見 陶冶(陶芸)
第9回(1996年5月)	※岩倉 寿(日本画)	木村 光佑(版画)	※富樫 実(彫刻)
第10回(1997年5月)	※下保 昭(日本画)	※齋藤 眞成(洋画)	※西嶋 武司(染色)
第11回(1998年5月)	※芝田 耕(洋画)	※山田 光(陶芸)	澁谷 和子(染色)
第12回(1999年5月)	※小嶋 悠司(日本画)	林 康夫(陶芸)	※服部 峻昇(漆芸)
第13回(2000年5月)	※堂本 元次(日本画)	※井上 隆雄(写真)	※江里 佐代子(截金)
第14回(2001年5月)	※渡辺 恂三(洋画)	木代 喜司(彫刻)	福本 繁樹(染色)
第15回(2002年5月)	※岩本 和夫(日本画)	小林 陸一郎(彫刻)	※栗木 達介(陶芸)
第16回(2003年5月)	※森本 勇(洋画)	竹内 三雄(彫刻)	河田 孝郎(染色)
第17回(2004年6月)	加藤 明子(洋画)	※木田 安彦(版画)	林 秀行(陶芸)
第18回(2005年6月)	吉川 弘(日本画)	柳原 睦夫(陶芸)	望月 玉船(漆芸)
第19回(2006年6月)	西野 陽一(日本画)	宮瀬 富之(彫刻)	上野 真知子 (ファイバーアート)
第20回(2007年6月)	※入江 酉一郎(日本画)	平岡 靖弘(洋画)	井隼 慶人(染色)
第21回(2008年6月)	木村 秀樹(版画)	秋山 陽(陶芸)	松本 ヒデオ(陶芸)
第22回(2009年6月)	三橋 遵(染色)	八木 明(陶芸)	甲斐 扶佐義(写真)
第23回(2010年6月)	西久松 吉雄(日本画)	野村 仁 (マルチメディア・アート)	田島 征彦(染色)
第24回(2011年6月)	山本 容子(版画)	小林 尚美 (ファイバーアート)	森村 泰昌(現代美術)
第25回(2012年5月)	川村 悦子(洋画)	福本 潮子(染色)	伊部 京子(ファイバーアート)
第26回(2013年5月)	麻田 脩二(染色)	清水 六兵衛(陶芸)	川瀬 敏郎(花人)
第27回(2014年5月)	畠中 光享(日本画)	西野 康造(彫刻)	生田 丹代子(ガラス造形)
第28回(2015年5月)	浅野 均(日本画)	今村 源(彫刻)	久保田 繁雄(ファイバーアート)
第29回(2016年5月)	森田 りえ子(日本画)	松井 利夫(陶芸)	ヤノベ ケンジ(現代美術)
第30回(2017年5月)	箱崎 睦昌(日本画)	山部 泰司(洋画)	やなぎ みわ(現代美術)
第31回(2018年5月)	小名木 陽一(織)	重松 あゆみ(陶芸)	鈴鹿 芳康(写真造形)
第32回(2019年5月)	名和 晃平(彫刻)	八幡 はるみ(染)	柏原 えつとむ(現代美術)
第33回(2020年5月)	近藤 高弘(陶芸)	山本 茜(截金ガラス)	宮永 愛子(現代美術)
第34回(2021年5月)	大野 俊明(日本画)	児玉 靖枝(洋画)	高橋 匡太(現代美術)
第35回(2022年5月)	伊庭 靖子(洋画)	笹井 史恵(漆芸)	中原 浩大(現代美術)
第36回(2023年5月)	北山 善夫(絵画)	岸 映子(陶芸)	西山 美なコ(現代美術)

絵画 39名(日本画19名 洋画13名 版画6名 その他1名)

彫刻 13名

工芸 39名(染織13名 陶芸18 漆芸4名 截金1名 截金ガラス1名 人形1名 ガラス造形1名)

その他 17名(写真3名 ファイバーアート4名 マルチメディアアート1名 花人1名 現代美術8名)

計 108名

## 第36回京都美術文化賞受賞者略歴（敬称略）

### 北山 善夫（きたやま よしお） 絵画・彫刻 74歳

1948年滋賀県生まれ。'82年第40回ヴェネツィア・ビエンナーレ（日本館）、カーネギーインターナショナル展、インド・トリエンナーレ等の国際展に多数参加。特に、竹や和紙を用いた大規模な彫刻作品が幅広く紹介され、建築プロジェクトにも取り組む。90年代半ばより、鳥の子和紙にインクを用いて描かれる大判の平面作品を展開。粘土の彫刻をもとに描いた「偶像図」や、宇宙の曼荼羅図ともいえる「宇宙図」等に取り組み、豊田市美術館の個展、アジアンアート・バンガラデシュ・ビエンナーレにて紹介される。'92年に愛知文化芸術センターに高さ36×幅19×奥行16mの国内最大の屋内彫刻作品「私（あなた）」を設置、'08年に上海のワールド・フィナンシャル・センタービル90階に15mの彫刻作品を設置し話題になった。



展覧会：'10年「瀬戸内国際芸術祭2010」（男木島／香川）、'13年個展「北山善夫展 生きるための主題」（みずのき美術館／京都）、'15年個展「北山善夫展 大声で笑い歌い、時には泣き」（東近江市立八日市文化芸術会館／滋賀）、'16年「宇宙と芸術展：かぐや姫、ダ・ヴィンチ、チームラボ」（森美術館／東京）、'17年「春企画展『大地の芸術祭』もう一度見たい名作展」（越後妻有里山現代美術館[キナーレ]／新潟）、'19年個展「北山善夫展 - 事件」（MEM／東京）、'22年「兵庫県立美術館 開館20周年 関西の80年代」（兵庫県立美術館）など多数。

受賞：'83年「第2回バンガラデシュ・ビエンナーレ展」ゴールドメダル賞、'92年タカシマヤ文化基金 第2回新鋭作家奨励賞、日本芸術大賞、滋賀県文化奨励賞、'99年「現代絵画の展望展」東京ステーションギャラリー賞、'11年第29回京都府文化賞功労賞、'18年京都市文化功労者受章など。

代表作：「言い尽くせない」立体（'82年）、「事件」絵画（'06年～'17年）、「死者へ、生者へ」インスタレーション（'00年大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2000）、「生きること 死ぬること」絵画（'12年）など。



「言い尽くせない」1982年  
©Yoshio Kitayama, courtesy of MEM



「事件」2006-2017年  
©Yoshio Kitayama, courtesy of MEM



「生きること 死ぬること」2012年  
©Yoshio Kitayama, courtesy of MEM

## 岸 映子（きし えいこ） 陶芸 75歳

1948年奈良県生まれ。'98年京都精華大学人文学部卒業。国際陶芸アカデミー会員。多様な表現が可能な陶芸の魅力に惹かれ、土作りから始まる「彩石象嵌」という独自の技法を確立する。コンクールやマックナイトアーティストインレジデンス（2000年、米・ミネアポリス）を経て、独自の幾何学形体の作品を生み出す。ハーバード大学、中国清華大学芸術博物館他、海外での講演多数。

展覧会：'05年「新世紀の日本の陶芸」（ボストン美術館／米国、'06年ジャパンソサエティー／米国）、'14年「Fired Earth Woven Bamboo Contemporary Japanese Ceramics and Bamboo Art」（ボストン美術館／米国）、「ブルックリン美術館の宝・出発点」（ジャパンソサエティー／米国）、'15年「Unfolding Worlds Japanese Screens and Contemporary Ceramics」（ヒューストン美術館／米国）、「Contemporary Japanese Ceramics in Global Context」（メトロポリタン美術館／米国）、'16年「Sculptural Turn：Contemporary Japanese Ceramics」（サンフランシスコアジアアート美術館／米国）、'18年「国際当代陶芸作品展」（中国清華大学芸術博物館／中国）、'19年「Kyoto Capital of Artistic Imagination」（メトロポリタン美術館／米国）、'21年「International Womensday」（チェルヌスキー美術館／フランス）、'22年「日本の彫刻 陶磁器」（南オーストラリア州立美術館／オーストラリア）など多数。



受賞：'85年朝日陶芸展グランプリ、'87年同奨励賞、'91年京展市長賞（同'92年）、第20回記念長三賞陶芸展長三大賞、焼き締め陶公募展記念賞、'95年同準大賞、'99年ファエンツァ国際陶芸展銀賞、'02年京都工芸美術作家協会展記念賞、'13年同京都府知事賞など。

代表作：「心象を積む」（'11年）、「心象を積む」（'17年）、「心象を積む」（'22年）など。



「心象を積む」2011年  
写真：永田陽



「心象を積む」2017年  
写真：永田陽



「心象を積む」2022年

## 西山 美なこ (にしやま みなこ) 現代美術 58歳

1965年兵庫県生まれ。'91年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。90年代より日本の消費社会の表層にひそむ「カワイイ」や「ピンク」、「装飾」といったテーマに着目し作品を制作。砂糖を使って王冠を作り時間の経過を観察する。2000年代に入り限りなく消え入るような壁画や、光の反射を利用した知覚に関わる作品、シュガーペーストを用いたインスタレーションなどにも取り組む。ホスピタルアートにも多数参加。

展覧会：'88年初個展「西山美奈子のための…」

(アートスペース虹/京都)、'97年「デ・ジェンダリズム- 回帰する身体」(世田谷美術館/東京)、個展「ピンク♥ピンク♥ピンク」(西宮市大谷記念美術館/兵庫)、'00

年「Let's Entertain」(ウォーカー・アートセンター/米国、他巡回)、'04年個展「Pink Vacancy」(資生堂ギャラリー/東京)、'07年個展「～いろいろいき～」(京都芸術センター/京都)、「美麗新世界：当代日本視覚文化」(ロングマーチ・広東美術館/中国)、'09年「広瀬光治と西山美なコの“ニットカフェ・イン・マイルーム”」(金沢21世紀美術館/石川)、'13年「LOVE展：アートにみる愛のかたち」(森美術館/東京)、'13・'14年六甲ミーツ・アート芸術散歩(兵庫)、'15年「Kawaii」(University for the Creative Arts Farnham/英国)、'17年個展「wall works」(Yoshimi Arts/大阪)、'21年「フェミニズムズ/FEMINISMS」(金沢21世紀美術館/石川)、'22年瀬戸内国際芸術祭2022(香川・岡山、同'13年)など多数。

代表作：「ザ・ピンクはうす」('91年)、「心ときめきエリカのテレポンクラブ♡」('92年)、「～melting dream～」('14年)、「～melting dream~/ 高見島パフェ 名もなき女性(ひと)達にささぐ…」('22年)など。



「ザ・ピンクはうす」1991年  
金沢21世紀美術館所蔵、写真：大島邦夫



「心ときめきエリカのテレポンクラブ♡」1992年  
兵庫県立美術館所蔵、写真：西村浩一



「～melting dream～」  
(六甲ミーツ・アート2014) 2014年



「～melting dream~/ 高見島パフェ  
名もなき女性(ひと)達にささぐ…」  
2022年、写真：木奥恵三